

五輪の折、武蔵の『五輪書』を読む

「できる状況づくり」の欠落

コロナ感染が増え続ける首都圏で、東京オリンピックが行われている。「バブル方式」なる大幅な行動制限や規制の下、無観客という異常な条件下で、ひたすら力と技を競うアスリート達の姿は、美しく、感動的だ。しかし、その間にもコロナは蔓延を続け、政府は対応に右往左往している。筆者に言わせれば、政府の対策に、国民を巻き込んだ「できる状況づくり」の発想が欠けているためだ。筆者は思いついて、オリンピック「五輪」から連想し、宮本武蔵の『五輪書』を書棚から引っ張り出してみた。昭和60年3月17日購入と書いてある。ちょうど、学位論文を書いていたころだ。何かの戦略としてこの本が必要だったのだろうか……？

（このころに、細川藩の客分として熊本の雲巖寺にある洞窟「靈巖洞」に籠り書いたと言われている。同書は「地の巻」「水の巻」「火の巻」「風の巻」「空の巻」の5巻からなる。「地・水・火・風・空」

「火」では、火の持つ静動、強弱、静動、景気など敵との対峙の仕方について具体的に兵法を説いている。「風」では、「むかし風」、「いま風」、「〇〇家風」などと言われ

ることから、他流について批評し、二天一流の道を説く。「空」は終巻であり、始めも終りもない自然の道、すなわち空の境地「是則空也」を知れと説く。

国民を敵とみなしてはならない。日本人の集団意識には、「丙午」では、だれも誘導しなくとも出生率が下がる、といった心理行動特性がある。そうした「国民の心理&行動様式」をとらえた対策が、効果ある一刃となるだろう。

二刀流をコロナ対策に適用する

さて、1000m走でもマラソンでも駆け引きなる戦法があるという。敵を知り戦う。コロナ対策も戦法が必要である。敵は「コロナ」である。これまでの施策を見ると、必殺の兵法になっていない。もはや何度も討たれ死に果している。「火の巻」に「けいきを知ると云事」の章がある。「敵のさかえおとろえを知、相手の人数の心を

さ、1000m走でもマラソンでも駆け引きなる戦法があるという。敵を知り戦う。コロナ対策も戦法が必要である。敵は「コロナ」である。これまでの施策を見ると、必殺の兵法になっていない。もはや何度も討たれ死に果している。「火の巻」に「けいきを知ると云事」の章がある。「敵のさかえおとろえを知、相手の人数の心を

……である。相手の意向を知り、その場の状況をつかみ、敵の状態をよく観察し、味方の部隊を動かす。我が戦術を打つと説く。また「さんかいのかわりと云事」の章がある。これは「山海の心」で、同じやり方を度々繰り返してはならない。二度まではやむを得ないが、三度目するものではない。敵が、山と思えば海、海と思えば山、と意表をつけて仕掛けよ、これが兵法の道と説く。

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。「全国ふるさと大使連絡会議」理事

「水」では、水おとろえを知、相手の人数の心を、其場の位を受、敵のけいき（二刀一流）の効能について書いてある。両手で二刀を持つよりは、片手ごとに二刀を持つ方が、相手が大勢の時に有利であると説く。コロナ対策に当てはめると、科学技術に根差した対策という二刀と、もう二刀には「けいきを能見うけ」対策する（ここではどうだろうか。その二刀とは、

「水」では、水おとろえを知、相手の人数の心を、其場の位を受、敵のけいき（二刀一流）の効能について書いてある。両手で二刀を持つよりは、片手ごとに二刀を持つ方が、相手が大勢の時に有利であると説く。コロナ対策に当てはめると、科学技術に根差した対策という二刀と、もう二刀には「けいきを能見うけ」対策する（ここではどうだろうか。その二刀とは、

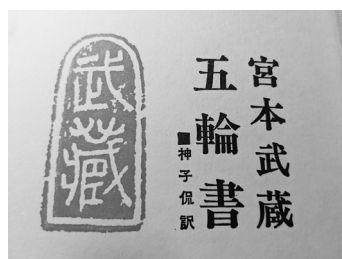
「火の巻」に「けいきを知ると云事」の章がある。「敵のさかえおとろえを知、相手の人数の心を、其場の位を受、敵のけいき（二刀一流）の効能について書いてある。両手で二刀を持つよりは、片手ごとに二刀を持つ方が、相手が大勢の時に有利であると説く。コロナ対策に当てはめると、科学技術に根差した対策という二刀と、もう二刀には「けいきを能見うけ」対策する（ここではどうだろうか。その二刀とは、

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。「全国ふるさと大使連絡会議」理事

地元力発見！

佐藤建吉 「洗楓座」代表

『五輪書』は、宮本武蔵（1584~1645年）が晩年（60歳）している。



上 『五輪書』のトビラ
右 宮本武蔵「二天一流」の像

上 『五輪書』のトビラ
右 宮本武蔵「二天一流」の像

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。「全国ふるさと大使連絡会議」理事